

viscount®
Classic Organ

Cantorum VI



取扱説明書

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。


	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告**

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている警告マークについて

本体には、次の警告マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

必ず実行

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止

水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

禁止

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおい煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

必ず実行

⚠ 注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々へけがをしたりする原因になります。



禁止

本体を壁につけない。

換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。壁から3cm以上離してください。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々へけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々へ転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグへ容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネルや鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、オルガンやコントローラー（ノブ、ボタンなど）、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

ベンチ



禁止

不安定な場所に置かない。
ベンチが転倒して、お客様やほかの方々がかげがをする原因になります。



禁止

ベンチで遊んだり、ベンチを踏み台にしたりしない。
ベンチが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

ベンチには二人以上ですわらない。
ベンチが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



必ず実行

ベンチのネジを定期的に締め直す。
ベンチを長期間使用すると、ベンチのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

ベンチの脚で床を傷つけないよう注意する。
ベンチの下にマットを敷くなどして、床を保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。
背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

目次

1. 重要な注意事項	8
1.1 製品の取り扱い / お手入れに関する注意	8
1.2 取扱説明書に関するお知らせ	9
2. 各部の名称とはたらき	10
2.1 上面パネル	12
2.2 背面パネル	16
3. アドバンスト・ファンクション	17
3.1 スプリットと MANUAL I / II	17
3.2 ボイス	17
3.3 メモリー	18
3.4 シーケンサー	18
3.5 MIDI	19
3.6 デモソング	22
3.7 ダイナミックカーブ	23
3.8 ファームウェアのアップデート	23
3.9 工場出荷時設定	23
4. 製品仕様 / オプション	24
MIDI インプリメンテーションチャート	25

1. 重要な注意事項

1.1 製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。
- 本体を手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ベンチを手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- アンプや拡張システムに接続するときは、必ず高品質のシールドケーブルをご使用ください。
- 電源コードはアース付きのコンセントに接続してください。

1.2 取扱説明書に関するお知らせ

- 本書のいかなる方法による無断複写・転載を禁じます。
- 本製品のすべての機能を使い、演奏をお楽しみいただくため、この取扱説明書をよく読んでご活用ください。
- この取扱説明書は大切に保存してください。
- 仕様、付属品および外観について、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。実際の仕様と異なる場合があります。
- 本書では各部(ボタン、スライダー、端子など)の名称を[]で囲んで表示します。たとえば、[TRANSPOSER]はTRANSPOSER ボタンを指します。
- MIDI は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

2. 各部の名称とはたらき

上面パネル

ボリューム

直感的に操作できるスライド式のボリュームつまみ。
MANUAL IとMANUAL IIのバランスやリバーブの調整も
指一本で簡単。
(12 ページ ①②③)

音/スピーカー

コンパクトながら美しく輝かしい響き。
演奏会、合唱団の練習、礼拝等に余裕をもって対応できる音量と、
バイカウントオルガンの人気モデルであるJUBILATEと同等
の高音質な音源を備えた一台です。

テンペラメント

古典調律の切り替えも簡単。
ボタンを押すだけで手軽に操作。
電子楽器ならではの便利な機能です。
(12 ページ ⑦)

調律名:

MEANTONE
WERCKMEISTER
KIRNBERGER
PYTHAGOREAN
EQUAL
PIPE ENS. 1
PIPE ENS. 2

トランスポーズ

トランスポーズも迷わず簡単。
±3半音の範囲で調整できます。
(12 ページ ④)

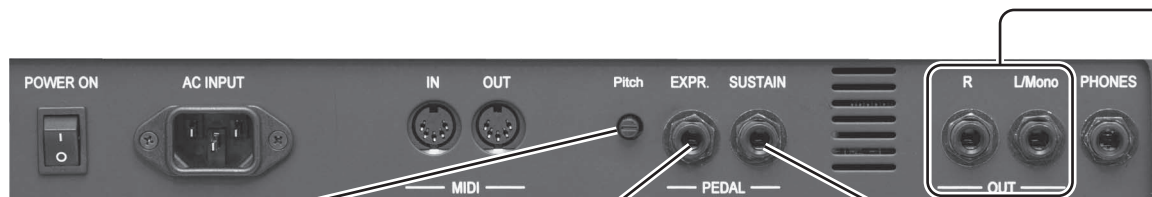
スプリット

1段鍵盤のキーボードで2段鍵盤のように
演奏できます。スプリットボタンを押すと指
定したポイントを境に右手でMANUAL II、
左手でMANUAL I/BASSの音色を鳴らせ
ます。
(12 ページ ⑤)

サウンドスタイル

演奏する曲に合わせて選べるオルガン
スタイル。
バロック1、バロック2、ロマンティック、
シンフォニックの計4つのオルガンスタ
イルから選べます。
(14 ページ ⑧)

背面パネル



ピッチ調整つまみ

±100セントの範囲で調整できるので、他の
楽器との演奏にも対応。持ち運びができるキー
ボードでアンサンブル演奏にも活用できます。
(16 ページ ④)

エクスプレッションペダル専用端子

音の強弱をつけることができるペダル
をつなげられます。
(16 ページ ⑤)

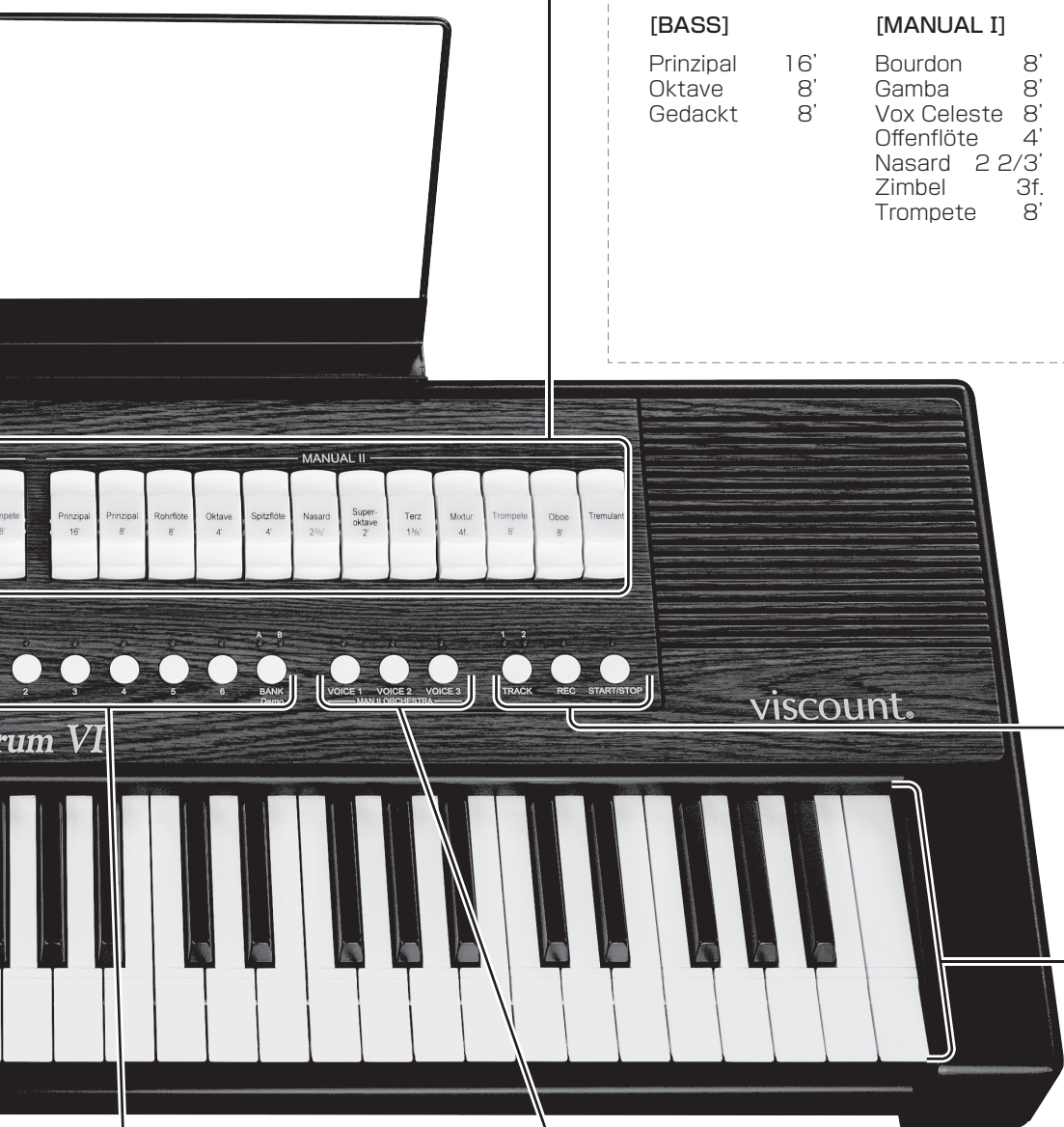
サステインペダル専用端子

ピアノの音色を選択したときに、
サステインできるペダルをつな
げられます。
(16 ページ ⑥)

音色ストップ

21ストップの本格的パイプオルガンサウンド。
パイプオルガンの音色を重ねる楽しさを堪能できます。
スプリットボタンが押されているときにはベース音が加わり演奏の深みが増します。
(15 ページ ⑱⑲⑳)

[BASS]		[MANUAL I]		[MANUAL II]	
Prinzipal	16'	Bourdon	8'	Prinzipal	16'
Oktave	8'	Gamba	8'	Prinzipal	8'
Gedackt	8'	Vox Celeste	8'	Rohrflöte	8'
		Offenflöte	4'	Oktave	4'
		Nasard	2 2/3'	Spitzflöte	4'
		Zimbel	3f.	Nasard	2 2/3'
		Trompete	8'	Superoktave	2'
				Terz	1 3/5'
				Mixtur	4f.
				Trompete	8'
				Oboe	8'
				Tremulant	



レコーディング

レコーディング機能を使って楽しくレッスン。
録音/再生機能を使えば演奏の保存が可能。客観的に確認することで効果的な練習ができます。
(14 ページ ⑮⑯⑰)

トラックータッチ鍵盤

本物のパイプオルガンのトラックータッチをシミュレートした鍵盤ですので、より表現豊かな演奏が楽しめます。

バンク/メモリーボタン

6×2バンクのメモリーが可能。
(14 ページ ⑪⑫⑬)

オーケストラ

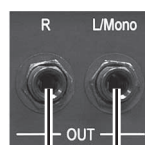
9つのオーケストラボイスを楽しめます。
ストリングスやハーブ、チェレスタ、ハーブシコード、ピアノ、クワイア、チャイム等の音を重ねられます。
(14 ページ ⑭)

ステレオラインアウト端子

標準フォーンタイプ
(L/R各1)の
ステレオラインアウト。
(16 ページ ⑦)

■応用■

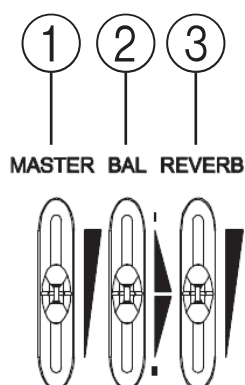
専用アンプ内蔵スピーカーV3.12A
(別売)につなぐと、中型オルガンの響きが得られます。



※実際には、スピーカー表面用のサラネットが付いています。

※接続には標準フォーンタイプの楽器用ケーブルを使用してください。

2.1 上面パネル



① [MASTER]

主音量を調整します。

② [BAL]

鍵盤左側(BASS/MANUAL I)と右側(MANUAL II)のバランスを調整します。

③ [REVERB]

リバーブの量を調整します。

-3 -2 -1 0 +1 +2 +3
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○



④



⑤



⑥

④ [TRANSPOSER]

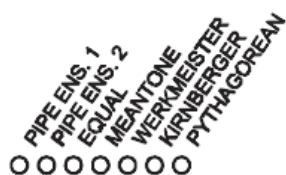
音程を±3半音の範囲で移調できます(半音単位)。

⑤ [SPLIT]

鍵盤の splitted をオン / オフします。この機能を使うと、1 段鍵盤のキーボードで 2 段鍵盤のように演奏でき、右手で MANUAL II の音色、左手で MANUAL I と BASS の音色を鳴らせます(17 ページ「3.1 スプリットと MANUAL I / II」参照)。初期設定の splitted ポイントは C3#(C3# は左側)です。さらに、オーケストラボイスも、左側で 2 つ、右側で 3 つ演奏できます。

⑥ [MAN. I ORCHESTRA]

MANUAL I のオーケストラボイスをオン / オフします。2 つのボイスボタンに 9 種類のオーケストラボイスから 1 つずつ割り当てることができます(17 ページ「3.2 ボイス」参照)。



TEMPERAMENT

⑦

⑦ [TEMPERAMENT]

時代や国など起源の異なる歴史的なテンペラメントを選択できます。このボタンを繰り返し押し、お好みのテンペラメントを選択してください(選択されたテンペラメントの LED が点灯します)。

選択肢は、EQUAL(平均律)、MEANTONE(ミーントーン)、WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター)、KIRNBERGER(キルンベルガー)、PYTHAGOREAN(ピタゴラス)です。

テンペラメントについて

自然倍音に基づいた調律システムでは、重要な音程である長3度と完全5度は、うなりの無い、純粋音程としては同時に存在することができません。そのため、何世紀にも渡り、テンペラメント(音律)という様々な妥協策が考案されてきました。

これは、特定の音程を重視し、他の音の音高を決定するために使用する音高の相対的な関係を調整するための規定です。古代から中世、15世紀の終わりまでは、純正な完全5度を積み重ねる、ピタゴラス音律と呼ばれる方法が使用されてきました。その結果、長3度は特に不快な響きとなり、不協和音と考えられていました。しかし当時の音楽はほとんどが単旋律で、複音式の声楽や器楽が芽生えた頃は5度音程が幅広く使われていました。ルネッサンス初期に、多旋律声楽の黄金期が始まり、長3度が次第に協和音とみなされるようになりました。オルガンやハーブシコードのような調律が固定された楽器では、このような傾向に合わせて、長3度をより重視したミーントーンという音律が使われるようになりました。ミーントーンは16世紀から18世紀の初めまでヨーロッパで一般的に使われたため、特に重要なテンペラメントといえます。

MEANTONE (ミーントーン)

- 純正長3度8個: E \flat -G/B \flat -D/F-A/C-E/G-B/D-F#/A-C#/E-G
- 実用不可の長3度(減4度)4個: B-D#/F#-A#/C#-E#/A \flat -C
- ウルフの5度(非常に不協和な広い5度): G#-E \flat
- かなり不規則な半音階(半音階のポジションでは非常に独特なボイスが得られます)
- ミーントーンで使用できる調: C, D, G, A, B \flat とそれぞれの平行短調

以下のテンペラメントではすべての長調、短調を使用できますが、調整変更の多いテンペラメントは現代の平均律に比べてかなり特異なボイスになります。

WERCKMEISTER (ヴェルクマイスター)

オルガニストであり音楽理論家のアンドレアス・ヴェルクマイスターの考案になるもので1600年代後半のドイツ音楽の演奏に適しています。

KIRNBERGER (キルンベルガー)

J.S. バッハの弟子であるヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したテンペラメントで、ドイツバロックの作曲家やバッハの楽曲に適しています。

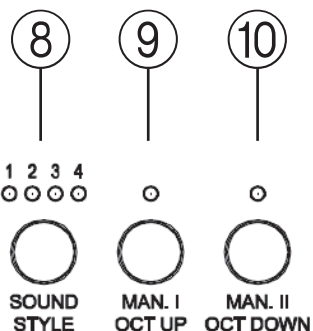
PYTHAGOREAN (ピタゴラス)

中世から15世紀に使われた、純正完全5度を保持したテンペラメントで、その時代の楽曲の演奏に適しています。

平均律には以下の3種類の設定があります。

[EQUAL]: 通常平均律を基準としています。

[PIPE ENS.1]/[PIPE ENS.2]: 平均律を基準として、パイプの経年変化や気温の変動による調律の狂いを加味し、パイプ間の微妙で自然なピッチの差を持たせたものです。[PIPE ENS.1]より[PIPE ENS.2]のほうがアンサンブル効果が大きくなっています。



⑧ [SOUND STYLE]

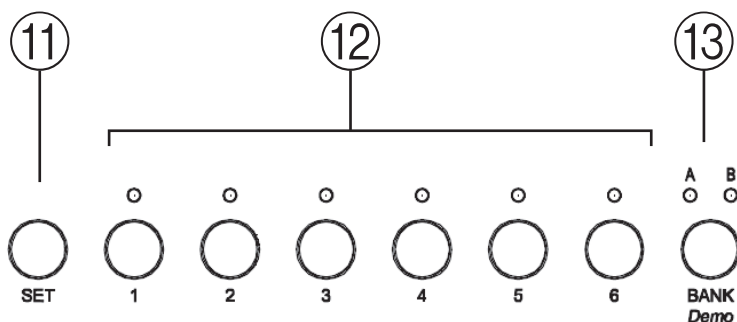
本機には3種類のオルガンスタイルがあります。4つのLEDは左から最初の2つがバロックのバリエーション、3つ目がロマンティック、一番右がシンフォニックに該当し、演奏する楽曲に合ったスタイルが選べます。

⑨ [MAN. I OCT UP]

スプリットポイントがオンのとき、MANUAL Iを1オクターブ高くします。

⑩ [MAN. II OCT DOWN]

スプリットのオン/オフにかかわらず、MANUAL IIを1オクターブ低くします。



⑪ [SET]

メモリーの保存に使用します。

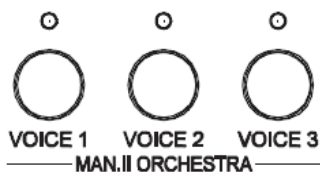
⑫ [1] ~ [6] (メモリーボタン)

保存したレジスターコンビネーションを呼び出します。

⑬ [BANK]

メモリーバンク A/B を切り替えます。

注:メモリーの使い方は18ページ「3.3 メモリー」を参照してください。



⑭ [MAN. II ORCHESTRA]

MANUAL IIのオーケストラボイスをオン/オフします。3つのボイスボタンに9種類のオーケストラボイスから1つずつ割り当てることができます(17ページ「3.2 ボイス」参照)。

⑮ [TRACK]

録音/再生トラックを選択します。

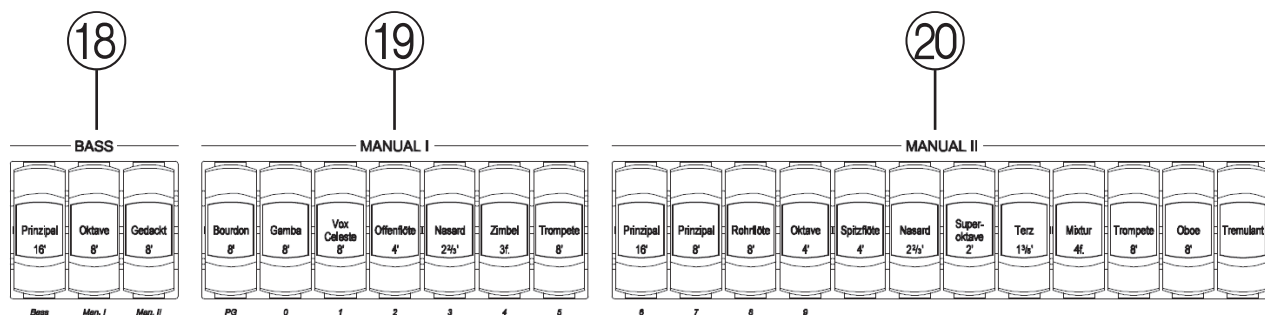
⑯ [REC]

トラックの録音を開始します。

⑰ [START/STOP]

トラックの録音または再生を開始します。

注:録音、再生については18ページ「3.4 シーケンサー」を参照してください。



⑱ [BASS]

BASS のボイスを選択します。

⑳ [MANUAL I]

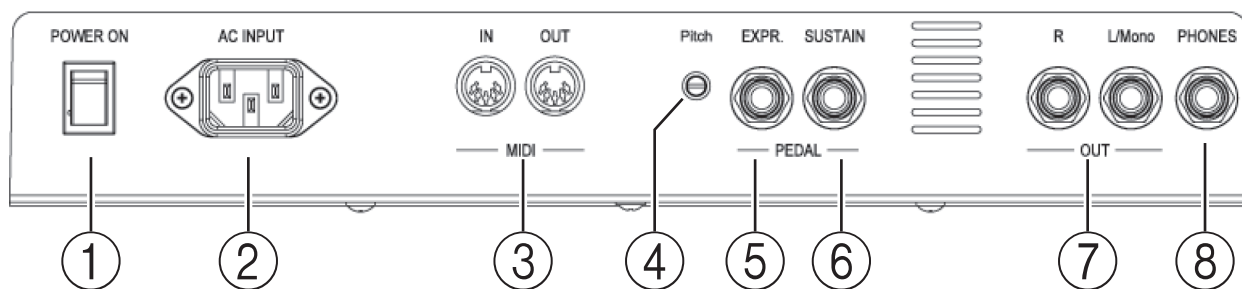
MANUAL I のボイスを選択します。

㉑ [MANUAL II]

MANUAL II のボイスを選択します。

注: スプリットがオフでも、[MANUAL I] ストップの LED は点灯したままとなります。

2.2 背面パネル



- ① **[POWER ON]**
本機の電源をオン / オフします。
- ② **[AC INPUT]**
電源コードを接続します。
- ③ **[MIDI]**
他の MIDI 楽器と接続します (MIDI についての基本知識は 19 ページ「3.5 MIDI」を参照してください)。**[MIDI IN]** 端子で外部機器から MIDI メッセージを受信し、**[MIDI OUT]** 端子から本機で生成された MIDI メッセージを送信します。
- ④ **[PITCH]**
± 100 セントの範囲でピッチを微調整できます。
- ⑤ **[EXPR. PEDAL]**
エクスプレッションペダル専用の接続端子です (標準フーンタイプ)。
- ⑥ **[SUSTAIN PEDAL]**
ピアノの音色で使用するサステインペダル専用の接続端子です (標準フーンタイプ)。オン / オフ式スイッチペダルを使用してください。
- ⑦ **[OUT]**
ステレオラインアウト端子です (標準フーンタイプ)。外部アンプ等に接続します。
- ⑧ **[PHONES]**
ステレオヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンを接続すると本機の内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

3. アドバンスト・ファンクション

3.1 スプリットと MANUAL I / II

鍵盤のスプリットポイントは初期設定では C3#(C3# は左側)に設定されています。

スプリットがオフのときは、MANUAL II のボイスを鍵盤全体で演奏できます。

スプリットがオンになると、MANUAL I と BASS のボイスが左側(スプリットキーを含む)で演奏でき、MANUAL II のボイスは右側で演奏できます。

BASS のボイスは単音のみで、複数のキーを押さえた場合、低い音が優先されます。

スプリットポイントを 32 番目のキー(G4)より高く設定した場合、BASS のボイスを G4 より上で演奏することはできません。

スプリットポイントの変更：

1. スプリットポイントを変更するには、**[SPLIT]** ボタンを長押しします。
2. LED が点滅を始めたら、**[SPLIT]** ボタンを押したまま、スプリットポイントに設定するキーを押します。
そのキーが新しいスプリットポイントとなります。
スプリットポイントは C7 より上、および C3 より下には設定できません。この範囲を越えるキーを指定すると、自動的にスプリットポイントが C7、または C3 になります。

注：移調設定(12 ページ)が 0 以外の場合、スプリットポイントの変更はできません。

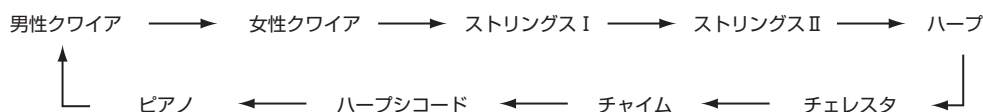
3.2 ボイス

本機には 9 種類のオーケストラボイスがあり、5 つのオーケストラボタン(**[MAN. I ORCHESTRA]** ボタンは 2 つ、**[MAN. II ORCHESTRA]** ボタンは 3 つ)に割り当てることができます。

オーケストラボイスは、男性クワイア、女性クワイア、ストリングス I、ストリングス II、ハープ、チェレスタ、チャイム、ハープシコード、ピアノ です。

オーケストラボイスの割り当て：

1. オーケストラボイスを割り当てたいオーケストラボタンを押します。
2. **[SET]** ボタンを押しながらオーケストラボタンを繰り返し押して、好みのオーケストラボイスを選択します。
オーケストラボイスは以下の順番で切り替わります。



ボイス音量の調整：

ボイスごとに音量を調整できます。

1. 本機の電源を切ります。
2. **[1]**、**[2]**、**[3]** (メモリーボタン) を同時に押しながら電源を入れます。
起動時に各ボイスの LED がしばらく点灯し、**[TRANSPOSER]** ボタンの LED がボイスの音量レベルを示します。
音量レベルは左から順に - 6dB、- 4dB、- 2dB、0dB、+2dB、+4dB、+6dB の 7 段階です。
3. 音量を調整したいボイスのストップを押します。
選択したストップの LED が点滅します。
4. **[TRANSPOSER]** ボタンを繰り返し押して、音量を調整します。

鍵盤で演奏をしながらボイスのサウンドを聴くこともできます (MANUAL I のボイスを聴きたい場合は、スプリットをオンにします)。複数のボイスをオンにすれば全体的な効果を聴くことができます。

トレモロの速さと深さの調整：

1. 本機の電源を切ります。
2. [1]、[2]、[3] (メモリーボタン) を同時に押しながら電源を入れます。
3. [Tremulant] ストップ (一番右の [MANUAL II] ストップ) を押します。
4. [TEMPERAMENT] ボタンを繰り返し押し、トレモロの速さを 7 段階で調整します。
速さは [TEMPERAMENT] ボタンの LED で表示されます。
5. [TRANSPOSER] ボタンを繰り返し押し、トレモロの深さを 7 段階で調整します。
深さは [TRANSPOSER] ボタンの LED で表示されます。
6. MANUAL II のボイスをオンにしてから、[Tremulant] ストップ をもう一度押すと、設定したトレモロの強さをチェックできます。
これでトレモロ効果のかかったボイスを演奏できるようになります。

注：トレモロ効果は MANUAL II のボイスのみにかかります。

3.3 メモリー

本機にはレジスター設定を保存するための、調整可能な 12 個のジェネラルコンビネーション (ボイス一式の状態を記憶) があり、これが 2 つのバンク (A/B) に分かれて入っています。

メモリーの保存：

[SET] ボタンと [1] ~ [6] (メモリーボタン) のいずれか 1 つを同時に押します。
メモリーバンク A/B を切り替えて保存する場合は、先に [BANK] ボタンを押してメモリーバンクを切り替えます。

メモリーの呼び出し：

呼び出したい [1] ~ [6] (メモリーボタン) を押します。
メモリーバンク A/B を切り替えて呼び出す場合は、先に [BANK] ボタンを押します。

メモリーがオンのときに、そのメモリーのボタンを長押しすると、すべてのレジスターを同時にオフにすることができます (これをキャンセル機能と呼びます)。この状態でも本機からは MIDI メッセージを送信できるので、音を出さずにマスターキーボードとして、接続した他のキーボード、オルガン、シーケンサー等をコントロールできます。たとえばバイカウント製のオルガンやエキスパンダー (CM100 など) に接続してそのボイスを使いたい場合に便利です。

音が出る状態に戻すには、レジスターをオンにするかメモリーボタンを押します。

3.4 シーケンサー

本機の内蔵シーケンサーを使って演奏 (ノートメッセージ、パラメーターチェンジの入った MIDIトラック) を録音できます。録音用トラックは 2 つあり、[TRACK] ボタンで選択します。

トラックの録音：

1. トラックの録音を開始するには、まず [TRACK] ボタンを押して録音先のトラックを選択します。
[TRACK] ボタンの LED が点灯します。
2. [REC] ボタンを押してから [START/STOP] ボタンを押します。
3. 演奏が終わったら [START/STOP] ボタンを押して録音を停止します。

[START/STOP] ボタンを押して録音を開始すると、そのときのレジスター設定が録音先トラックに保存されます。あらかじめお好みのレジスター設定になっていることを確認してください。

別の設定を使用したい場合は、[REC] ボタンを押したあと、お好みのボイスをオンにしてから [START/STOP] ボタンで録音を開始します。

注：鍵盤を弾き始めるだけで録音を開始することもできます。

注：演奏開始前に録音を中止する場合は、[REC] ボタンをもう一度押します。

トラックの再生：

1. [TRACK] ボタンを押して再生トラックを選択します。
2. [START/STOP] ボタンを押して再生を開始します。
再生開始時に、録音時のレジスター設定に切り替わります。再生中にレジスター設定やオーケストラボイスを切り替えることもできますが、その変更内容は保存されません。再生が終わった時点では、トラック再生時に使用されたレジスター設定のままになります。
3. トラック再生を停止するには、[START/STOP] ボタンを押します。

3.5 MIDI

■ MIDI とは

MIDI とは Musical Instrument Digital Interface の略で、特定の通信プロトコル、インターフェース、端子などを使って、異なるメーカーや様々なタイプの電子楽器間でデータのやりとりを行なうための世界共通規格です。MIDI システムを構築すれば、1 台の楽器を単独で使うよりも汎用性やコントロール性がはるかに向上します。このデータのやりとりを行なうために、MIDI 楽器には以下の 2 つまたは 3 つの 5 ピン DIN 端子が装備されています。

- **MIDI IN 端子**:他のユニットから MIDI データを受信します。
- **MIDI OUT 端子**:他のユニットへ MIDI データを送信します。
- **MIDI THRU 端子**:MIDI IN 端子で受信した MIDI データをそのまま送信します。複数の楽器や機器を直列に接続したときに使用します。本機には装備されていません。

MIDI インターフェースを装備している楽器の多くは、演奏したノート(音名)や弾く強弱などの情報を MIDI データとして MIDI OUT 端子から送信します。この MIDI OUT 端子を、別の MIDI 楽器(エキスパンダーなど)の MIDI IN 端子に接続すると、受信側の MIDI 楽器が送信元の楽器で演奏したノートを正確に再現します。同様のデータ送信が MIDI シーケンサーの記録にも使われます。コンピューターやシーケンサーを使って、送信元の楽器で生成した MIDI データを記録します。この記録データをその楽器に送信すれば、録音された演奏が自動再生されます。

MIDI には 16 系統の MIDI チャンネルがあるので、1 本のケーブル、1 つの端子だけで大量のデジタルデータを MIDI 送信できます。たとえば、無線通信で双方の局が互いに同じ周波数(またはチャンネル)に合わせたときにのみ通信できるのと同じで、接続された 2 台の MIDI 機器間でも、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルが同一の場合にのみ通信できます。

MIDI メッセージには、チャンネルメッセージとシステムメッセージがあります。これらのメッセージについて次に説明します。

チャンネルメッセージ

NOTE ON (ノートオン)

鍵盤上でキーが押されると、このメッセージが送信されます。ノートオンメッセージには次の情報が含まれています。

Note On(ノートオン):キーが押されたこと

Note Number(ノート番号):押されたキーのノート番号

Velocity(ベロシティ):音の強弱(キーを押したときの強さ)

音名は、0 から 127 の Note Number(ノート番号)で表現されます。中央の C が 60 番です。

NOTE OFF (ノートオフ)

すでに押されたキーが解放されると、このメッセージが送信されます。メッセージが受信されると、そのキーによって演奏された音が停止します。ノートオフメッセージには次の情報が含まれています。

Note Off (ノートオフ): キーが解放されたこと

Note Number (ノート番号): 解放されたキーのノート番号

Velocity (ベロシティ): 音の強弱(キーが解放される速さ)

注: Velocity(ベロシティ)=0 のノートオンメッセージは、ノートオフメッセージと同じです。

PROGRAM CHANGE (プログラムチェンジ)

このメッセージは、受信側の楽器のプログラムまたは音を選択するときに使用します。

General MIDI と呼ばれる特定の統一規格があり、受信された各プログラムチェンジに対してどの音色が呼び戻されるかを規定しています。通常、この音色割り当ては、General MIDI 規格を採用した楽器の取扱説明書の MIDI インプリメンテーションチャートに記載されています。

プログラムチェンジメッセージには次の情報が含まれています。

Program Change (プログラムチェンジ): ボイスまたはプログラムが変更されたこと

Program Change Number (プログラムチェンジ番号): 有効にするプログラムやボイスの番号

CONTROL CHANGE (コントロールチェンジ)

演奏に表現を加えるために使用されるコントロールメッセージです(多くの場合、つまみやペダルに関連します)。ボリューム(CC n.7)やエクスプレッションペダルの位置(CC n.11)などのボイスパラメーターを設定(必要に応じてリアルタイムでコントロール)することができます。

このメッセージには次の情報が含まれています。

Control Change (コントロールチェンジ): コントローラーが調整されたこと

Controller Number (コントローラー番号): 調整されたコントローラー

Controller Position (コントローラー位置): コントローラーの設定位置

システムメッセージ

SYSTEM EXCLUSIVE (システムエクスクルーシブ)

これらのメッセージは、送信側機器と同じメーカーの楽器(場合によっては同じモデル)でのみ読み取ることができ、主にその楽器音の生成やプログラミングパラメーターに関連しています。本機ではこれらのメッセージを使用して、すべての内部パラメーターをコントロールしボイスのオン/オフを切り替えます。

REAL TIME (リアルタイム)

これらのメッセージは、接続されている楽器の特定のモジュールや機能のコントロールをリアルタイムで行なうために使用されます。

メッセージには、START(開始)、STOP(停止)、PAUSE/CONTINUE(一時停止 / 続行)、CLOCK(クロック)コマンドが含まれます。本機では内蔵シーケンサーを使用するときに、このメッセージが送信されます。

START(開始): シーケンサーが MIDI シーケンスの録音または再生を開始

STOP(停止): シーケンサーが停止

PAUSE/CONTINUE(一時停止 / 続行): シーケンサーが一時停止(本機ではコントロールできません)

CLOCK(クロック): シーケンサーの速度

リアルタイムメッセージには、2 台の MIDI 楽器間の通信状態を保つために送信されるアクティブセンシングコードも含まれます。受信側の楽器が MIDI データまたはアクティブセンシングコードを約 300 ミリ秒間受信しないと、MIDI の接続が切れていると判断されます。そのため、まだ有効なノートもオフになります。このメッセージの送受信はオプションですので、すべての楽器が対応しているわけではありません。

■ MIDI メッセージの送信

本機の MIDI チャンネルはあらかじめ設定してありますが変更することもできます。

- チャンネル 1=MANUAL II
- チャンネル 2=MANUAL I
- チャンネル 4=BASS

MIDI メッセージ送信のオン / オフ :

1. **[TRANSPOSER]** ボタンを約 2 秒間長押しして、MIDI モードに入ります。
[TRANSPOSER] ボタンの LED が点滅します。**[BASS]** ストップ以外の LED はすべて消灯します。
2. MIDI メッセージ送信をオン / オフしたいセクションの **[BASS]** ストップを押します (セクション名は **[BASS]** ストップの下に白色で表示されています)。
 オフにできる MIDI メッセージは、ノートメッセージ、プログラムチェンジ、コントロールチェンジ、システムエクスクルーシブの一部です。
3. MIDI モードを抜けるには、**[TRANSPOSER]** ボタンを押します。

注: MIDI データ受信は常にオンになっています。

MIDI チャンネル番号の変更 :

1. **[TRANSPOSER]** ボタンを約 2 秒間長押しして、MIDI モードに入ります。
[TRANSPOSER] ボタンの LED が点滅します。
2. **[BASS]** ストップのうちの 1 つを下向きに約 2 秒間長押しして、MIDI チャンネルを変更したいセクションを選択します (セクション名は **[BASS]** ストップの下に白色で表示されています)。
 選択したセクションの LED が点滅します。
 同時に **[MANUAL I]** ストップと **[MANUAL II]** ストップが数字キーとして使えるようになります (割り当てられている数字は各ストップの下に白色で表示されています)。MIDI メッセージ用に現在選択されているチャンネル番号のストップが 1 回点滅します。
3. **[MANUAL I]** ストップと **[MANUAL II]** ストップを使って、01 ~ 15 の範囲内の MIDI チャンネル番号を選択します。
 MIDI チャンネル番号は必ず 2 桁で入力してください。**[TEMPERAMENT]** ボタンの左端 2 つの LED で、入力する数字の桁がわかります (1 つ目の LED が点灯しているときは、左の桁を入力しています。2 つ目の LED が点灯しているときは、右の桁を入力しています)。右の桁の数字を入力すると、一番左の **[MANUAL I]** ストップ (「PG」の表示があるストップ) の LED が 5 回点滅し、新しい MIDI チャンネル番号が正しく設定されたことを示します。チャンネル番号を変更したセクションの LED の点滅が止まります。入力した番号が 01 ~ 15 の範囲外の場合、入力は自動的に中止され、以前の MIDI チャンネル番号がそのまま維持されます。
4. MIDI チャンネル番号の変更を終了するには、現在選択されているセクションのストップをもう一度押します。
5. MIDI モードを抜けるには、**[TRANSPOSER]** ボタンを押します。

■ ローカルオフ機能

ローカルオフ機能を使用すると、本機の鍵盤を弾いたときに、どのセクションの音源からも音が出ないように設定することができます。ただし、ローカルオフ機能をオンにしても、MIDI ペダルボードなどから受信した MIDI メッセージで音源が応答し、本機の[MIDI OUT]端子からは鍵盤上で演奏した MIDI メッセージが送出されます。

ローカルオフ機能の設定：

1. ローカルオフに設定したいセクションの[BASS]ストップを上向きに約 2 秒間長押しします。
選択したセクションの LED が点滅します。
これで、[MANUAL I]ストップが数字キーとして使えるようになります(割り当てられている数字は各ストップの下に白色で表示されています)。この数字キーの「0」と「1」の LED のどちらかの点灯で、対象セクションのローカルオフの状態がわかります。「0」が点灯するとローカルオフ機能はオフ、「1」が点灯するとローカルオフ機能はオンです。
2. 対象セクションのローカルオフ状態を変更するには、「0」か「1」のストップを押します。
変更すると一番左の[MANUAL I]ストップ(「PG」の表示があるストップ)の LED が 5 回点滅し、設定が変更されたことを表示し、変更されたセクションの LED の点滅が止まります。
3. ローカルオフ機能設定モードを終了するには、対象セクションに該当するストップをもう一度押します。

■ プログラムチェンジ

12 個のメモリーのそれぞれに、プログラムチェンジナンバーを割り当て、メモリーを呼び出すたびに、割り当てられた MIDI メッセージの送信ができます。

プログラムチェンジの送信：

1. [TRANSPOSER] ボタンを約 2 秒間長押しして、MIDI モードに入ります。
2. 一番左の[MANUAL I]ストップ(「PG」の表示があるストップ)をオンにして、プログラムチェンジ設定モードに入ります。
3. メモリーボタンを押します(必要に応じて[BANK]ボタンを押してメモリーバンク A/B を切り替えます)。
[MANUAL I]ストップと[MANUAL II]ストップの LED が順番に点滅して、対応するプログラムチェンジナンバーを示します([MANUAL I]ストップと[MANUAL II]ストップの下に、0 から 9 までの数字が白色で表示されています。たとえば、[1](メモリーボタン)を押すと、「0」のストップが 2 回点滅したあと、「1」のストップが 1 回点滅します。これは [1](メモリーボタン)にプログラムチェンジナンバー「001」が割り当てられていることを示します)。このプログラムチェンジナンバーが MIDI によって送信されます。
4. 選択したメモリーに新しいプログラムチェンジナンバーを設定するには、新しいナンバーに対応するストップを押します。
プログラムチェンジナンバーは常に 3 桁です(たとえばプログラムチェンジナンバー「9」を設定するには、「0」「0」「9」と押します)。
5. MIDI モードを抜けるには、[TRANSPOSER] ボタンを押します。

注：MIDI メッセージの送信がどのセクションでもオフになっている場合、プログラムチェンジは(他のメッセージも同様)送信されません。

3.6 デモソング

本機には 6 曲のデモソングが内蔵されており、音色をデモ演奏で試聴できます。

デモソングの再生：

1. [BANK] ボタンを約 2 秒間長押しします。
2. [1]～[6](メモリーボタン)を押して、再生したいデモソングを選択します。
3. デモソングの再生を終了するには、[BANK] ボタンを押します。

3.7 ダイナミックカーブ

本機にはタッチレスポンス機能が搭載されており、3種類のダイナミックカーブと4種類のペロシティから選ぶことができます。ペロシティはオーケストラボイスのサウンドと本機から送信されるMIDIメッセージに影響しますが、ダイナミックカーブはボイスには影響を与えません。

ダイナミックカーブの設定：

1. 本機の電源を切ります。
2. [2]、[3]、[4] (メモリーボタン)を同時に押しながら電源を入れます。
[TRANSPOSER] ボタンのLEDのいずれか1つが点灯し、現在の設定内容を表示します。
設定は左から順にソフト、ノーマル、ハード、32(固定)、64(固定)、96(固定)、127(固定)の7つです。
3. [TRANSPOSER] ボタンを繰り返し押し、設定を選択します。
4. 設定を終了するには、本機の電源を切ります。

3.8 ファームウェアのアップデート

本機のファームウェアはMIDIファイル形式です。ファームウェアをアップデートする際は、外部MIDI機器から本機のMIDI IN端子にMIDIファイルを送信する必要があります。コンピューターを使用する場合は、コンピューターのMIDI OUT端子からMIDIファイルを送信するアプリケーションが必要です。

アップデート：

1. 本機の電源を切ります。
2. 左端から5つの白鍵(C2～G2)を同時に押しながら電源を入れます。
[TEMPERAMENT] ボタンのLEDがすべて点灯し、MIDI経由でのファームウェア受信待ち状態になります。
3. 外部MIDI機器またはコンピューターを使用して、本機の[MIDI IN]端子にファームウェアを送信します。
ファームウェア受信中は、[PIPE ENS. 1]のLEDが点滅します。
アップデート終了後、本機は自動的に再起動します。アップデート中にエラーが起きると、[TEMPERAMENT] ボタンのLEDがすべて点滅します。その場合は本機の電源を切り、再度アップデートを行なってください。

3.9 工場出荷時設定

工場出荷時設定とは、本機の生産時にプログラムされた初期設定です。工場出荷時設定に戻すと、ユーザー設定やメモリーの内容がすべて初期化されます。

工場出荷時設定へのリセット：

1. 本機の電源を切ります。
2. [SOUND STYLE] ボタン、[MAN. I OCT UP] ボタン、[MAN. II OCT DOWN] ボタンを同時に押しながら電源を入れます。
すべてのLEDが3秒間点灯し、工場出荷時の設定で本機が再起動します。

4. 製品仕様 / オプション

■ 仕様一覧

手鍵盤	61 鍵
音色形状	タブレット
音色ストップ	計 21 (MANUAL I × 7、MANUAL II × 11、BASS × 3)
トレミュラント	1
古典調律	4 (キルンベルガー、ヴェルクマイスター、ピタゴラス、ミーントーン)
ピッチ	- 100 ~ + 100 セント
サウンドスタイル	4 (バロック 1、バロック 2、ロマンティック、シンフォニック)
オーケストラボイス	9
メモリーボタン	6
メモリーバンク	2
移調	- 3 ~ + 3
コントロール	マスターボリューム、バランス (BASS/MANUAL I と MANUAL II)、リバーブ
録音再生機能	○
デモ曲	6 曲
アンプ	2 × 22W
スピーカー	5" フルレンジバスレフ × 2
接続端子	ヘッドホン端子 (ステレオ標準フォーンタイプ) ステレオラインアウト端子 (標準フォーンタイプ) サステインペダル専用端子 (標準フォーンタイプ) エクスプレッションペダル専用端子 (標準フォーンタイプ) MIDI IN/OUT 端子
ボリュームペダル	別売専用木製スタンドに付属
寸法	幅 970 × 高さ 130 × 奥行 360 mm
質量	12kg
付属品	譜面立て、電源コード

■ オプション

アンプ内蔵スピーカー V3.12A



出力	280W
スピーカー	ウーファー (12") × 1、ミッドレンジ (8") × 1、 ツイーター × 1
コントロール	ボリューム、イコライザー (低域、中域ゲイン / 周波数、高域)、 リモートコントロール、スタンバイ
接続端子	入力端子 × 1、リンク端子 × 1
外装	ダークオーク調仕上げ
寸法	幅 420 × 高さ 650 × 奥行 360 mm
質量	24kg

MIDI インプリメンテーションチャート

Viscount CantorumVI
Portable 61-keys organ

Version: 1.0
Date:03/05/2006

FUNCTION...		TRANSMITTED	RECEIVED	REMARKS
BASIC		1, 2, 4	1, 2, 4	
CHANNEL	Changed	X	X	
MODE	Default	Mode 3	Mode 3	
	Messages	*****	*****	
	Altered	*****	*****	
NOTE		33÷99	33÷99	
NUMBER	True Voice	36÷96	33÷99	
VELOCITY	Note ON	O	O	
	Note OFF	X	X	
AFTER	Key's	X	X	
TOUCH	Ch's	X	X	
PITCH BENDER		X	O	
CONTROL	7	X	O	Volume
CHANGE	11	O	O	Expression
	120	O	O	All sound off
	121	O	O	Reset All Controllers
	123	O	O	All Notes Off
PROGRAM		O	X	
CHANGE	True#			
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM	Song Pos	X	X	
COMMON	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
SYSTEM	Commands	O	O	*
REAL TIME				
AUX	Local On-Off	X	X	
MESSAGES	All notes off	O	O	
	Active Sense	O	O	
	Reset	X	X	
NOTES:	*: these messages are used to control the sequencer			

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

X=NO
O=YES

◆保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には、保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印、お買い上げ日」などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
有寿命製品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。
有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ヒューズなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

●修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

(全国共通番号) **0570-012-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。

通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は、053-460-4830 におかけください。

受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定
休日を除く)

FAX

東日本

(北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海)
03-5762-2125

西日本

(沖縄 / 九州 / 中国 / 四国 / 近畿 / 北陸)
06-6649-9340

◆製品に関するお問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン

楽器営業本部 マーケティング部 ピアノ・EKB 課

TEL : 03-5488-5442

受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、弊社指定休日を除く)

viscount[®] Classic Organ

総輸入発売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

<http://www.yamahamusicjapan.co.jp/>

楽器営業本部 マーケティング部 ピアノ・EKB課

〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11

TEL : 03-5488-5442

大阪事業所

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-13-17 ナンバ辻本ニッセイビル

TEL : 06-6649-9101